

# PNLSC



## 2022年度 活動報告書

### I 活動報告

#### 1・フィリピン残留日系人の日本国籍回復支援事業

- (1) 残留日系人2世の身元探し
- (2) 就籍による2世、2世死亡の場合の3世の日本国籍回復支援
- (3) 外務省(在ダバオ総領事)との合同2世面接
- (4) 事業進捗報告会議
- (5) 出生事項等記載申出による死亡の2世の国籍回復支援
- (6) 2世男性の子である3世の国籍回復支援
- (7) 在日在比フィリピン日系人への相談・助言

#### 2・フィリピン残留日系人の一時帰国支援事業

#### 3・フィリピン残留日系人に関する研究、講演、広報、出版事業

- (1) 外務省委託調査
  - ①外務省・第15次調査(2021年9月10日～2022年3月10日)
  - ②外務省・第16次調査(2022年9月15日～2023年3月31日)
- (2) 広報・出版
  - ①PNLSCニュースの発行
  - ②Nikkeijin Newsの発行
  - ③ホームページ、SNSによる発信
  - ④オンライン寄付サイト「Give One」からの発信
  - ⑤「お宝エイド」への登録—物品寄付を通じたファンドレイジング
- (3) 講演
- (4) 報道実績

#### 4・フィリピン残留日系人に関する政策提言事業

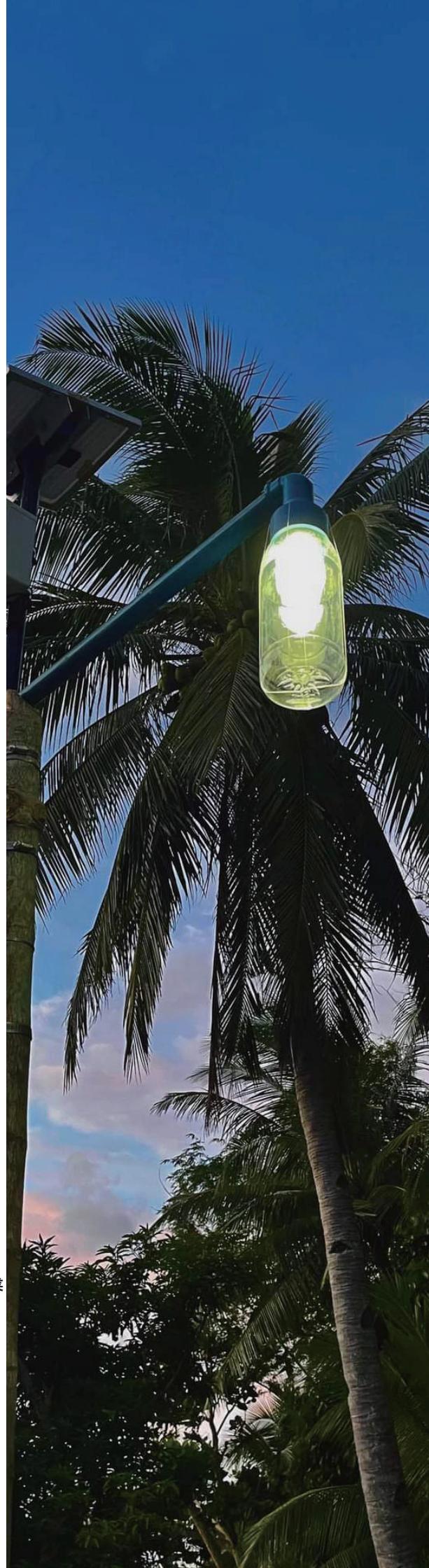
- (1) 国会議員へのロビー活動
- (2) 国連高等難民弁務官 (UNHCR) フィリピン事務所  
および駐日事務所との協力、連携
- (3) 外務省南東アジア二課および在マニラ日本大使館との情報交換
- (4) フィリピン統計庁 (PSA) 訪問

#### 5・フィリピン残留日系人社会の経済的、文化的発展のために寄与する事業

- (1) 日系人会行事への参加及び支援
- (2) リッターオブライトワークショップ (パラワンにて)

### II 組織の現状

- |            |        |
|------------|--------|
| 1・会員数      | 4・組織体制 |
| 2・会費、寄付の内訳 | 5・会議   |
| 3・助成金      | 6・その他  |





## 1・フィリピン残留日系人の 日本国籍回復支援事業

### (1) 残留日系人2世の身元捜し

日本人父の身元（本籍地）が判明することは2世の悲願であると同時に、2世の国籍取得への大きな足掛かりとなる。2022年3月末時点で身元未判明の2世は851人（故人を含む）。フィリピン各地の日系人会から送られてきた調査票（ジェネラルレジストレーション、GR）をもとに、日本国内で、資料・文献調査、親族照会、日系人会スタッフやマニラPNLSCスタッフを通じた追加の聞き取り、情報収集を実施。今期は2世6人（1世1人）の身元（父親の戸籍）が確認できた。PNLSC設立以降2022年12月末までに696人の2世の身元が判明したことになる。近年は2世や家族から新たな情報が得られることは稀で、困難な事案が多いが、あきらめずに調査を進めている。

身元捜しのための2世ないし家族面接はオンラインで2件、東京で対面で2件（3世に聞き取り）、猪俣代表フィリピン出張中に対面で3件実施。



### (2) 就籍による2世、2世死亡の場合の3世の日本国籍回復支援

無国籍の2世26人、3世8人の計20人の日本国籍回復を支援した。その結果、2世12人（全員、父戸籍判明済みケース）、3世8人につき、弁護士を代理人とした家庭裁判所への就籍許可申立てを完了した（計20人のうち同年度内に6人、また2023年に入ってから5人に許可が下りている。2022年中の2世の許可総数は16人。

事業開始から2022年12末日までに、トータルで2世291人と、2世死亡の3世7人が就籍により国籍を回復したことになる（2月20日現在2世293人、3世9人）。2021年中に申立てできず持ち越したケースについては順次申立てしていく。いまだ2世本人の出生証明書が作成できていない、父母の婚姻の情報がない、父についての情報が少ない、などのため難航しているケースもあるが、継続して調査、また現地の手続きを支援していく。

※申立てにかかる弁護士費用や翻訳、諸経費実費について、2020年から日本弁護士会連合会の法テラス委託援助事業を活用（事件ごとに代理人弁護士が申請）し、援助を受けている。



## 現地の2世とオンラインでつながり陳述書を録取

2世は弁護士を代理人として就籍許可申立てを行います。PNLSCはフィリピン日系人会連合会とともに申立ての前段階の、証拠書類収集や証拠整理、家系図作成、2世の生い立ちを聞き取る陳述録取などを行っています。以前はフィリピン出張で日本人スタッフが行っていた陳述書録取は、コロナ禍となって以降、オンライン面接が定着。四谷事務所のPNLSC事務局員、フィリピンの2世、2世の所属する日系人会スタッフないし役員、マニラPNLSCスタッフ（マニラ事務所）が4か所でつながり、オンラインで聞き取りします。2世宅のインターネット環境によっては会話が途切れ途切れになることもしばしばですが、ニワトリや犬の鳴き声をバックに、2世の状況を確認しつつ話を聞いています。この他、PNLSC東京事務局では、フィリピンの書類の翻訳、外国旅券下付表、俘虜銘名表、身分関係表などの調査も行っています。



### （3）外務省（在ダバオ総領事）との合同2世面接

外務省第16次調査の一環として、ダバオにて、12月13日から16日までの4日間、在ダバオ石川義久総領事が計8人の2世を面接調査した（3名は2世の健康上の理由から、家庭訪問、残る5名はフィリピン日系人会会議室にて面接）。PNLSCはダバオのフィリピン日系人会（PNJK）とともにこれを準備し、当日も代表理事猪俣がフィリピン日系人会（PNJK）スタッフとともに同席し、補佐した。面接終了後、作成された報告書は2世が家庭裁判所に就籍許可を申立てる際の証拠の1つとして提出される。

### （4）事業進捗報告会議

2020年まで、毎年11月前後にPNLSCの現地カウンターパートであるフィリピン日系人会連合会の役員及び傘下の各地日系人会会長が一同に会し、事業の進捗報告と、次年度計画を説明、共有するプロジェクト進捗報告会議を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大以降3年間実施できていない。2022年の代表理事猪俣のフィリピン出張中、イネス マリヤリフィリピン日系人会連合会会長をはじめ、在バギオ市の北部ルソン比日基金（アボン）、在ダバオ市のフィリピン日系人会、在バコロドのネグロス日系人会、中部ルソン比日協会の各会長と個別に会談し、事業の進捗や今後について情報交換した。

### （5）出生事項等記載申出による死亡の2世の国籍回復支援

父の戸籍は判明しているが2世が戸籍に記載されていないケースについて、「出生事項記載申出（申出人は3世など）」を、亡くなった2世11人、存命の2世1人について、該当市町村役場に提出した（再提出を含む）。12件中5件が年度内に記載許可、3件は不許可ないし不受理、5件が継続審査中である（前年度に提出した件での記載許可は別途3件、記載不許可1件、係属中6件）。

不許可に対しては、管轄家裁に（市町村長の不受理決定に対する）不服申立てを過去に3件試みており、2022年度も同様の申立てを新たに2件行った。これまでに計3件につき、遅延登録を認め、（2世母の）死亡届の受理を命じる審判がおりている。2件係属中。

### （6）2世男性の子である3世の国籍回復支援

戸籍記載済み2世男性の子である3世5人につき、出生事項記載申出による国籍回復を支援した。うち3人が戸籍に記載され、2件は継続。前年度に申出していた6人も今期中に記載された。

## 《解説》亡くなった2世の出生事項をなぜ記載申出するのか？

家庭裁判所への就籍許可申立ては、本人が亡くなってしまうとできません。亡くなった2世の国籍回復手段が「出生事項記載申出」です。PNLSC発足以降、PNLSCが窓口となって戸籍記載申出し、認められて父戸籍に記載された2世は91人。2004年、2005年は記載率は100%でしたが、2006年以降、法務局の審査が厳しくなり、不許可や返戻されるケースが急増しました。いずれも遅延登録の信用性が問題とされています。管轄の家庭裁判所に「行政処分不服申立て」をし、遅延登録を有効と認める内容の決定を得るという方法を継続するとともに、法務省民事局との話し合いを行い、理解を求めていきます。

※2022年12月20日のUNHCR議連、UNHCR駐日事務所共催の勉強会（後述）では、青木理事が、出生事項記載申出における法務局の審査姿勢、特に遅延登録証を信用しない点について改善を求めた。これを受け2023年に入り、外務省の調整により法務省民事局第一民事部との意見交換が実現している。



### (7) 日在比フィリピン日系人への相談・助言

在日在比のフィリピン日系人（3世・4世を含む）からの、戸籍登載、国籍取得、帰化、日本国籍取得等に関する相談に応じた（電話 / メール / 来所）。

#### 相談例◎ 2世の戸籍登載の可否や手続きの進め方について

3世の戸籍登載 / 3世就籍について（2世が男性の場合）

3世の国籍取得について（2世が女性の場合で、2世の就籍直後の申請）

4世の国籍取得（戸籍への届出）について

3世の帰化について

在日3世の国政選挙の投票の仕方について

## 2・フィリピン残留日系人2世の 一時帰国支援

本年度は実施しなかった。

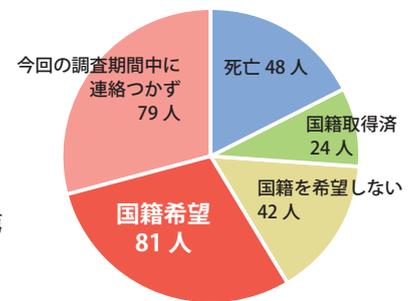
## 3・フィリピン残留日系人に関する 研究、講演、広報、出版事業

### (1) 外務省委託調査

#### ①第15次調査（調査期間：2021年9月10日～2022年3月10日）

日本国外務省・アジア大洋州南東アジア第二課から委託を受け「第15次フィリピン残留日系人2世調査」として、無国籍のリスクにあるフィリピン残留日系人724人から生死不明・消息不明の人を除いた274人につき、消息調査、日本国籍の有無の確認、日本国籍回復の意思確認を実施した。2022年3月末に外務省南東アジア二課に報告書を提出。

➔ 274人中、81人が国籍取得を希望していることがわかった。内訳は上記グラフのとおり（24人国籍取得済み、48人死亡、42人希望せず、79人調査期間中連絡つかず）。



#### ②第16次調査（調査期間：2022年9月15日～2023年3月31日）

同じく外務省南東アジア第二課から委託を受け「第16次フィリピン残留日系人2世調査」として、以下を実施中。

① 第15次調査で日本国籍回復を希望することが確認された存命の残留日系2世81人のうち40人につき、大使館 / 総領事館領事による面接を準備、支援（領事による調査報告書を就籍申立の証拠資料として提出し、国籍回復の迅速化を図る）。

② 国籍回復を希望する81人の就籍許可申立て準備。

③ 第15次調査でコンタクトできなかった79人に、無国籍のリスクにあるフィリピン残留日本人で「生死不明」「消息不明」の382人を加えた計461人につき、引き続き、消息調査、日本国籍の有無、日本国籍回復の意思確認。

④ プロジェクトにかかわる各地の日系人会でこのプロジェクトの担当スタッフ、マニラPNLSCスタッフ、PNLSC事務局でオンライン会議を実施（11月22日）。

➔ 461人に各地の日系人会スタッフが総当たり。成果を集計中。



## (2) 広報・出版

### ① PNLSC ニュースの発行

73号から76号までの4号を発行(1月、4月、7月、10月)し、会員、支援者、関係諸団体に発送、また映画「日本人の忘れもの」上映イベント等で配布した。各1300部印刷。希望者、関係者にPDF版をメール配信。

### ② Nikkei-jin News の発行

55号から58号までをPNLSC Inc.と共同で発行し、フィリピン国内では各日系人会や日系人会員に配布、日本国内では日系人会員に直接、また日系人を雇用する企業に送付した。各900部印刷。希望者、関係者にPDF版をメール配信。

### ③ ホームページ、SNS による発信

団体ホームページをリニューアルし、報告やマスコミ報道の告知を行った。

<http://pnlsc.com/>

フェイスブックの公開グループ< PNLSCJAPAN >及び< PNLSCManila >で随時情報発信した。

<https://www.facebook.com/groups/pnlscjapan/>

<https://www.facebook.com/pnlsc/>



### ④ オンライン寄付サイト「Give One」からの発信

公益財団法人パブリックリソースセンターが運営する「**オンライン寄付サイト Give One**」(<http://giveone.net>)に2020年5月から登録し、寄付プロジェクトとして「フィリピン残留日本人2世国籍回復支援プロジェクト」を掲載、活動レポートを随時更新している。同サイトを通じ、匿名で毎月の継続寄付がある。



### ⑤ 「お宝エイド」への登録—物品寄付を通じたファンドレイジング

2021年度から、物品寄付を通じてNPOを応援する仕組みを展開する「**お宝エイド**」(寄付物品の査定額に10%上乗せした額がお宝エイドを通じて寄付者指定のNPOに振り込まれる)に登録。ビジョン、ミッション、アクション、団体情報が掲載されており、物品寄付者が当所を指定して物品寄付できる。2022年度中は7口の物品寄付が15万89円の寄付につながった。今後、さらなる周知に努めていきたい。



## ボランティアのみなさまに、大活躍していただいています！

昨年度に引き続き、ニュースレター発送作業には、ボランティアさんが大活躍。随時4～5人の方が発送前準備作業(切手、宛名シール貼り)及び、ニュースの折り、封入作業を手伝って下さっています。回を重ねるごとに人数も増えてありがたいです。今後もボランティア協力を広く呼び掛けていきます。



## (3) 講演

① 3月12日、**立正佼成会**リーダー育成講座(オンライン)に、猪俣代表理事が参加。

② 4月5日、**米国ラトガース大学主催**の映画「日本人の忘れもの」オンライン映画上映会とトークイベントに、猪俣代表理事が参加。

③ 7月4日、**東京外語大学・多言語多文化共生センター**主催の「日本人の忘れもの」上映イベントに、事務局長石井が、学生会員北田依利さんとともに参加。上映後トークでは特に、学生がPNLSCの活動にどのように貢献できるかの具体例を伝え、参加を呼び掛けた。

## (4) 報道実績(新聞6、テレビ3、雑誌1、Web媒体7)

	報道・発行日	媒体	備考
<b>新聞</b>	1月31日	東京新聞	猪俣代表インタビュー「あの人に迫る」
	4月5日	赤旗新聞	猪俣代表インタビュー「ひと」



	報道・発行日	媒体	備考
新聞	7月25日	信濃毎日新聞／共同通信	パラワン日系人会発足
	8月31日	日刊まにら新聞	パラワン日系人会発足
	11月18日	朝日新聞	白木アイダさんについて
	12月8日	朝日新聞	「いちからわかる」(残留日本人2世全体像)
TV	8月2日	NHK	「キャッチ 世界のトップニュース」(パラワン島の日系人について)
	8月24日	NHK WORLD	"NEWSROOM TOKYO" (パラワン日系人会発足)
	8月27日	NHK	「おはよう日本」(パラワン島の日系人について)
雑誌	7月1日	雑誌『青淵』	パラワン島の日系人について
Web	8月11日	Kyodonews.net・英語版	山本アンヘリタさん就籍許可
	8月15日	佼成新聞デジタル	「忘れられた日本人」猪俣代表コラム連載(月1回・継続中)
	8月27日	Yahooニュース／共同通信	パラワン日系人会発足
	8月27日	毎日新聞Web・英語版	パラワン日系人会発足
	11月18日	朝日新聞デジタル	白木アイダさんについて
	12月8日	BuzzFeed	植田イサベルさんインタビュー
	12月19日	東京新聞 Web／共同通信	マニラでの無国籍撲滅に向け市民団体ネットワーク立ち上げ

## 4・フィリピン残留日系人に関する 政策提言事業

### (1) 国会議員へのロビー活動

- ① 4月28日、日比友好議員連盟会長となった森山ひろし衆議院議員事務所表敬訪問
- ② 7月12日、森山ひろし衆議院議員、青山大人衆議院議員、大塚拓衆議院議員の各事務所を訪問
- ③ 10月25日、青山大人衆議院議員、逢沢一郎衆議院議員の各事務所を訪問

### (2) 国連高等難民弁務官 (UNHCR) フィリピン事務所および駐日事務所との協力、連携

- ① ジリアン・トリッグス国連難民高等弁務官補の来日中の12月20日、UNHCR 議員連盟と UNHCR 駐日事務所共催で無国籍のフィリピン残留日本人に焦点を当てた勉強会が開催され、PNLSC からは青木理事が報告。国会議員及び秘書計約 20 人以上が参加。何人かの議員は、勉強会後に自身のツイッターで「解決に向けて取り組む」「人権問題だ。努力する」などのツイートを発信した。



※ UNHCR フィリピン事務所は、2021 年 4 月 28 日、無国籍のリスクにある者として特にフィリピン残留日本人 (PJD: Persons of Japanese Descent) に注目した「政策提言報告書」(Desk Review: フィリピン政府への提言) を公表しています。そこでは、フィリピン残留日系人を「無国籍のリスクにある集団」に追加すること、解決に向けてフィリピンと日本の二国間協力に関する合同委員会の設置を検討すること、委員会は遅くとも 2024 年までに設置すべきことが明記されています。これを受け、UNHCR 駐日事務所も PNLSC と密に情報交換しつつ、日本政府に向けたアドボカシーに積極的に動いてくれています。

- ② フィリピン国内における無国籍者削減に向け、UNHCR フィリピン事務所のバックアップのもと、フィリピンの無国籍者問題にかかわる市民団体のネットワーク結成に向けて 2020 年より会議が重ねられてきた。PNLSC も発足に向けたオンライン会議に継続的に参加してきた。12月19日にマニラ市内で行われた市民社会ネットワーク調印式に代表理事の猪俣が出席。市民団体を代表してスピーチした。
- ③ 12月19日ジリアン・トリッグス国連難民高等弁務官補の来日に併せて開催された市民社会との意見交換会で PNLSC 事務局長石井が報告。

### (3) 外務省南東アジア二課および在マニラ日本大使館との情報交換

早急かつ効果的な 2 世の国籍回復の実現に向けた施策のため、対面またはオンラインで外務省南東アジア二課と情報交換した (1/8、3/15、8/9、10/3、11/24)。

また、在マニラ日本大使館 参事官、領事、在ダバオ総領事と 5/25、8/9、11/29 に無国籍 2 世の認定、



日本国籍取得後の2世の在留資格及び出国手続き問題に関し、情報交換した。

#### (4) フィリピン統計庁 (PSA) 訪問

残留2世の遅延登録作成が難航している問題につき、12月12日、フィリピン日系人会連合会、在マニラ日本大使館岡島公使、牧野領事班長とともにフィリピン統計庁身分関係登録長官事務所 (OCRG-PSA) を訪問、連合会とPSAとの覚書 (日系人会が遅延登録の際の初期審査の役割を担う) の再確認と覚書再締結について意見交換した。

#### 参議院予算委員会で岸田首相が答弁「政府一丸となって取り組みたい」

3月10日の参議院予算委員会で、立憲民主党の白眞勲参議院議員 (当時) が、フィリピン残留日本人問題についての質疑を行いました。後藤茂之厚生労働大臣は「厚生省としても一生懸命取り組ませていただく」、古川禎久法務大臣は「法務省としてもこの所掌の範囲でできる限りのことをできるように努力する」、岸田内閣総理大臣は「政府、政治の責任として大変重要な課題と認識している。(略) 政府一丸となってこうした方々に対する支援により一層力を入れて取り組みたい」と答弁しました。同年10月26日には、立憲民主党の青山大人衆議院議員 (日比友好議員連盟事務局次長) も、衆議院外務委員会で残留2世の窮状を訴え外務省の取り組みを質問。林大臣官房参事官が、「一日も早い国籍回復のため、調査の拡充を含めフィリピン政府と意思疎通しつつ取り組みを進めたい」と答弁しました。



## 5・フィリピン残留日系人社会の 経済的、文化的発展のために寄与する事業

### (1) 日系人会行事への参加及び支援

- ① 5月28日のパラワンの日系人による設立準備会に、代表理事猪俣が、フィリピン日系人会連合会のイネス・マリヤリ会長とPNLSCマニラ事務所スタッフ1名とともに参加し、役員選挙に立ち合い、正式な発足に向けて支援した。
- ② 8月27日のパラワン日系人会第一回総会 (越川和彦大使が来賓として出席) に、代表理事猪俣が連合会イネスマリヤリ会長、マニラPNLSCスタッフ2名とともに参加した。
- ③ 9月25日、アボン (在バギオ北部ルソン比日基金) 設立50周年記念行事に猪俣代表理事とマニラスタッフ1名が参加した。
- ④ 12月4日、バコロド日系人会役員就任式及び総会に、代表理事猪俣とマニラスタッフ1名が参加した。
- ⑤ 12月9日、中部ルソンマニラ日比協会役員会議に代表理事猪俣が参加した。



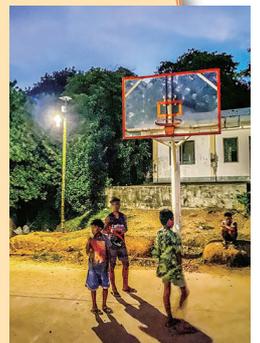
### (2) リッターオブライイトワークショップ (パラワンにて)

生協総合研究所「アジア生協協力基金」の助成を受けて、パラワン日系人会を拠点にリッターオブライイトワークショップを8月27日の第一回設立総会后 (午後) に実施。

#### リッターオブライイトとは

ペットボトルを再利用した小型太陽光発電装置で、フィリピン人イリアック・ディアス氏が普及に努めるオープンソーステクノロジー。その簡易性や利便性から世界の貧困地域でオルタナティブなエネルギー源として注目を集めています。

<※日系人会とリッターオブライイトの関係> フィリピンの離島や僻地ではまだ電気の普及率は高くありません。そこで、フィリピン各地の日系人会を拠点に、リッターオブライイト製作技術と実用化の方法を学ぶワークショップを開催します。成果物により、日系人の各家庭に照明が供給され生活の質が向上。また、地域の夜間照明、充電器、街灯としての活用の道もあり、日系人会の地域貢献、ひいてはソーシャルビジネスとしての可能性も出てきます。ワークショップとプロジェクトを通じて、日系人会が活性化し、会員同士の相互交流や結束力強化にもつながっています。



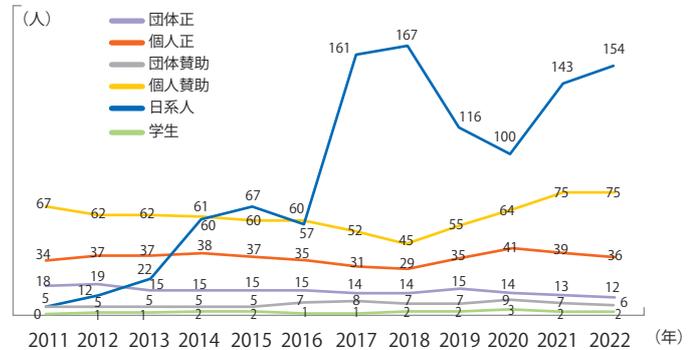


## 1・会員数

2022年度12月末の  
会員数は右の通り。

	団体	個人
正会員	12(退会1)⇒減1	36(新入会0、退会3、他会員から1、賛助に移動1)⇒減3
賛助会員	6(退会1)⇒減1	75(新入会5、退会5、 正会員から賛助に1、賛助から正会員に1)
日系人会員		154(新入会23、退会19)⇒増4
学生会員		2(新入会1、退会1)

### PNLSC 会員数の推移



## 2・会費・寄付の内訳

	件数	金額
正会員 (団体)	11口	252,000円
(個人)	32口	384,000円
賛助会員 (団体)	5口	60,000円
(個人)	68口	408,000円
学生会員会費		6,000円
日系人会員会費	106口	318,000円
寄附 (88人+匿名、少額、役員等)	113口	23,186,278円

※認定NPO法人のパブリックサポートテストにカウントできる  
寄付、賛助会費、日系人会費の総件数  
**227**件 (前年247件から20件減)

## 3・助成金 2022年度に執行した助成金は以下の通り。

	事業期間	金額
立正佼成会 一食平和基金	2021年11月1日 ※1 ～22年10月31日	2,000,000円
(公財)生協総合研究所 アジア生協協力基金	2022年4月～23年3月 ※2	887,000円

※1・2020年11月1日～2021年10月31日実施予定で2020年中に受領したがコロナのため1年繰り越した。  
※2・2021年4月～2022年3月の予定だったがコロナのため延期となり、いったん返金し再度受領した。

## 4・組織体制

### 役員

代表理事：猪俣典弘  
理事(継続)：伊藤英男/星長吉/ジュセブン・  
アウステロ/青木秀茂/関野章  
監事(継続)：伊藤佳江

### 事務局

東京事務所  
猪俣典弘(代表理事・常勤)  
石井恭子(事務局長・常勤) 田近陽子(常勤)  
田母神葉子(常勤・10/17から)  
高野敏子(非常勤) 大友麻子(非常勤)  
※会計精査 奥田よし子税理士に委託  
※高野敏子が12月末をもって退職  
マニラ事務所  
エミー ビリオネス(常勤)  
ジェネリン アロヨ(常勤)

## 5・会議

- 理事会：令和4年度第1回理事会 令和4年3月1日  
(於：本塩町事務所)
- 総会：第18回通常総会 令和4年3月18日  
(オンライン開催)
- 事務局会議：必要に応じて随時行った  
(オンライン会議を含む)  
(2022年1/24、7/4、10/3、11/4 計4回)

## 6・その他

### 在外公館長表彰

4月22日、越川和彦駐フィリピン大使より、猪俣典弘代表理事とPNLSCの現地法人PNLSCinc.の法律顧問ジョスエ シム ズニエガ弁護士に在外公館長表彰が贈られた。PNLSCの活動を通じフィリピン日系人の地位向上および日比の相互理解促進に尽力したことが評価された。大使公邸で授賞式が行われた。

